

熱戦の 決勝大会

夢の舞台で
全力プレー!

第17回 中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会

2020年12月5日(土)・6日(日)の2日間、第17回 中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会「決勝大会」を開催しました。中国5県の607チームの中から予選を勝ち抜いた8チームが、「マツダZoom-Zoomスタジアム広島」をメイン会場に熱い戦いを繰り広げました。

1日目 野球ができる喜びを噛み締め 憧れの球場で白熱プレー!

例年より寒さが堪える時季での開催となった本大会。12月5日(土)、「マツダZoom-Zoomスタジアム広島」で決勝大会初日を迎えました。開会式では、本大会を支える方々から励ましの言葉をもらい、広島県代表の中島スポーツ少年団の主将が元気よく選手宣誓。野球ができる喜びと感謝を胸に、決勝大会の幕が開けました。

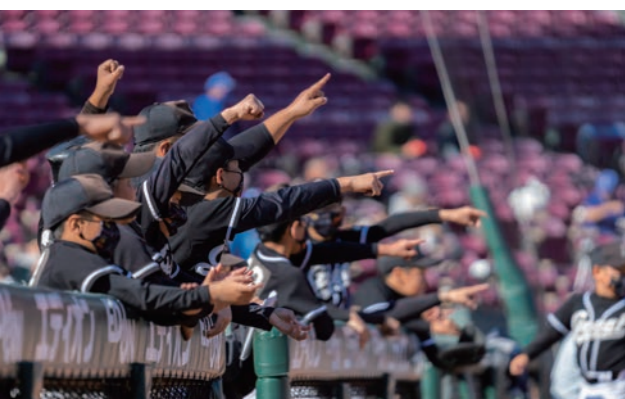
初日は準々決勝戦を実施。プロ野球選手がプレーする憧れの球場をめざして練習に取り組んできた選手たちは、コロナ禍で公式試合が次々中止されてきたこともあってか、例年以上に気合い充分。6年生は引退前最後の大会となるチームも多く、高いモチベーションで熱戦が繰り広げられました。



日頃の練習の成果を存分に発揮し、体当たりの全力プレーを魅せてくれた選手たち。



中国ろうきん杯 東方田専務による
ナイスピッチングを始球式で試合開始。



大声を出せない中、スタンドでは各チーム工夫した応援グッズを持参!



ロッキーも静かに全力応援!



コロナ禍での大会運営にご協力ありがとうございました!

参加者の検温・消毒・マスク着用はもちろん、大声や歌での応援禁止、選手や観客同士のハイタッチ禁止、ベンチや道具の定期的な消毒など、感染対策は万全!

中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会とは?

「毎日ひたむきにがんばる子どもたちの夢を応援したい」という思いから、2004年より(中国ろうきん)の社会貢献活動の一環として、中国地区軟式野球連盟と(中国ろうきん)の共催で開催し、2020年で第17回目を迎えました。

参加チーム数 選手数	2019年度		2020年度	
	チーム	選手	チーム	選手
鳥取県	95	1,900	105	2,100
島根県	95	1,900	97	1,940
岡山県	119	2,380	121	2,420
広島県	158	3,160	156	3,120
山口県	127	2,540	128	2,560
合計	594	11,880	607	12,140



2日目 サヨナラタイムリーヒットが光る 大接戦の準決勝・決勝戦

2日目の6日(日)は準決勝戦と決勝戦の3試合が行われました。数々の試合を勝ち抜いてきた4チームによる試合はどれも接戦。岡山県代表の瀬戸ドリームスと鳥取県代表の三朝野球スポーツ少年団の準決勝戦では、同点で迎えた最終回裏のサヨナラタイムリーヒットにより、瀬戸ドリームスが2-3で決勝に進出しました。

決勝戦は、瀬戸ドリームスと広島県代表の中島スポーツ少年団の対決。ホームでの交錯や両チームのピンチを守りきる白熱ぶりでもたまや2-2の同点を迎えた最終回。勝敗を決めたのは、中島スポーツ少年団のサヨナラタイムリーヒット!3塁走者の全力スライディングで決勝点が入ると、ベンチ・スタンドでは歓喜の笑顔が見られました。



緊迫した試合運びで、接戦が続いた本大会。悔いを残さないよう、一生懸命プレー。



笑顔や涙、真剣な眼差し...
いろんな表情を見せてくれました。
みんな、ナイスファイト!



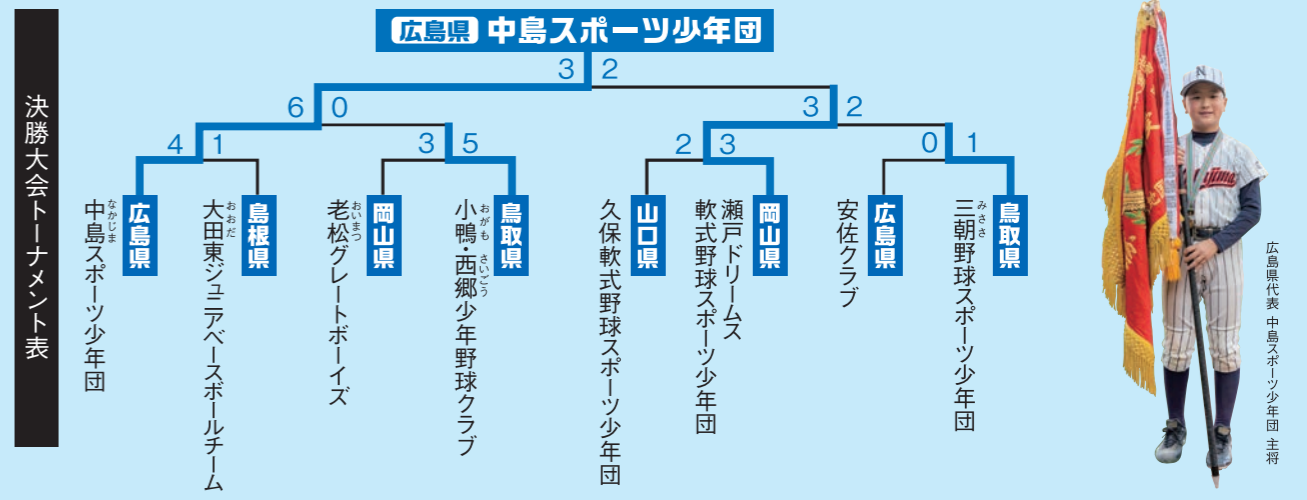
広島県 広島県代表 中島スポーツ少年団

決勝大会3年連続出場の中島スポーツ少年団。主将の住田くんは「先輩たちが成し遂げられなかった中国大会優勝を達成できて嬉しい。チーム全員の力で勝てました」と笑顔。6年生は本大会が最後の試合。最後まで諦めない姿勢が印象的でした。



岡山県 瀬戸ドリームス軟式野球スポーツ少年団

笑顔あふれる元気な雰囲気大会を盛り上げてくれた瀬戸ドリームス。試合中も「胸張っていこう!」とチームを鼓舞する掛け声が響いていました。



広島県代表 中島スポーツ少年団 主将